

ふるさと奥尻通信

令和2年12月18日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

地の利を生かす、という言葉があります。強い北西風が吹き続ける冬場、西海岸は波浪で大荒れですが、一転して東海岸は穏やかな海面です。海水面が多いことこそ奥尻の強みです。

特集 奥尻島の漁業のうつりかわり その①

奥尻島は四方を海に囲まれた海洋資源に恵まれた島です。地理的には北上してくる温暖な対馬暖流と、沿海州を反転し南下して戻って来る寒冷なりマン反流がぶつかり合う場所に位置しています。そのため、奥尻近海では北方系の魚と南方系の魚の両方が生息していることが知られています。近年では対馬暖流の流れ込みが強く、生息環境の変化が想定されています。今号では島の漁業資源獲得の歴史を探ってみます。

漁業の歴史は、遺跡の発掘からは縄文時代晩期までさかのぼることが出来ます。青苗地区で発掘された遺跡を例にすると、1400年前の青苗砂丘遺跡では、フサカサゴ科のソイ類(クロソイ、マゾイ、シマゾイ)、ハチガラ(ムラソイ)の骨が多く発見されています。他にはカジカ科のギスカジカ、アイナメ科のホッケ、アブラコなどが見られました。これらの魚は春の産卵期(ホッケは秋冬)や秋冬の交尾期・越冬期に活発に活動し、岸辺に寄りつきます。船が発達していない時代にはもっぱら海岸から漁をしたでしょうから、岸寄りしやすい魚種を獲得したことになります。これらの魚種は1000年以上たった今日でも大差なく見られます。



イカ漁船の盛況 釣懸塚田写真館撮影 1921年(大正10年)9月25日

時代は下りまして、19世紀の江戸時代後期から明治初期にかけては、北海道島の日本海側はニシン漁で栄えていました。特にその集積地となった江差の港町は江戸にも勝るような賑やかさだったと言いつづけています。一方、対岸の奥尻ではアイヌによる季節的な出稼ぎ漁があったものの、ニシン漁の中心からは遠く、また明治に入ってから檜山地方全体の漁獲量も減ったため、ついに大きな開発が行われることなく、漁業の転換期を迎えることとなりました。個々の魚種の変遷は右の表に示した通りですが、現在でも多く漁獲されている産品として、普遍的なものやはりアワビです。こちらは少なくとも1000年前には島の特産品として輸出用に捕獲していたようです。現在でも厳格なルールの下に漁をしています。1000年間もずっと高級食材としての地位を保ち続けているというのも凄い話ですね。

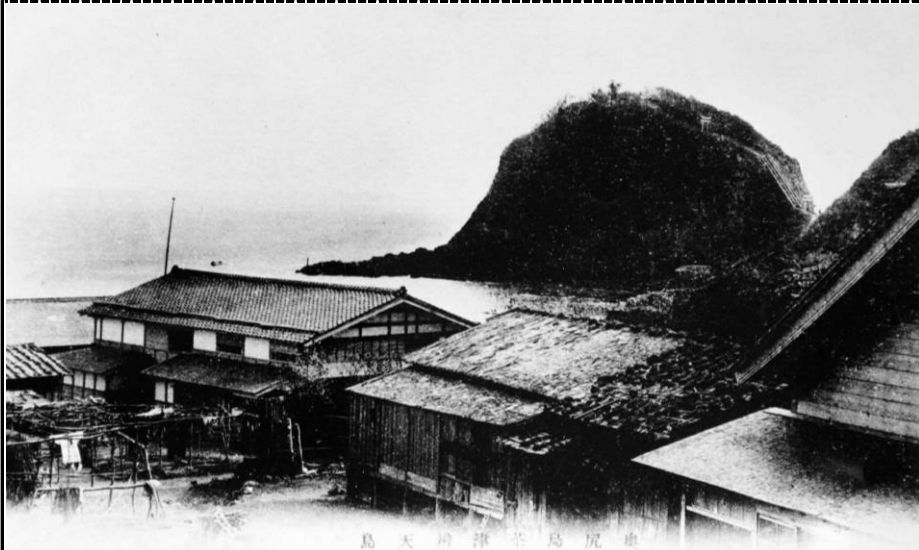
1880~90年代にニシン漁が不安定になったことにより、その代替としてフカ漁やコウナゴ漁を試みたり、宇宙長造がホタテの養殖に取り組んだりといった新しい動きが見られました。そして1897年頃には、福井県から来た漁師がイカ漁で高利益を上げ、さらに1901年頃から古宇地方(岩内方面)の漁師が入ったことから、その手法が徐々に広まり、主要な漁獲対象として現在につながっていきます。その後、明治の終わり頃にかけて、ホソメコンブやワカメなどの海藻類、カレイ漁、タラ漁、タコ漁などが本格化していきます。春と秋に大群でやってくるホッケの捕獲に捲網を導入し、1910年には稲穂地区の水野辰太郎が新式のホッケ漕曳網を開発、普及させて道庁から表彰される出来事もありました。こうして、奥尻島の漁業(漁獲対象)は明治の半ば頃より変容をきたし、末の頃にはすっかり変わっていったのです。

奥尻島の漁業関係年表(主な産物)

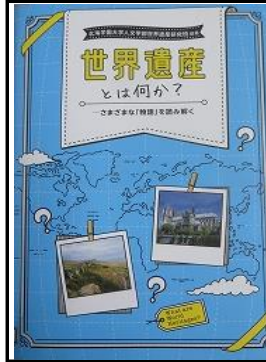
縄文時代晩期	ホッケ、ニホンアシカなど
続縄文時代	ソイ、ハチガラ、アブラコ、カレイ、ヒラメ
オホーツク文化期	ギスカジカ、ソイ類、アブラコ、アワビ
660年	阿倍比羅夫遠征。北方の産品を吟味?
700年代	本州との交易盛ん
1000年頃	ソイ、ハチガラ、アブラコ、マダラ、カジカ、アワビ、ホタテ、ニホンアシカ等
1529年	アイヌがオットセイ漁で出稼ぎにくる
1800年代	俵物用のアワビ、ナマコ。オットセイ
1854-59年	幕府が臈肭臍(オットセイ)場所を設置
1860年	干しアワビ、イリコが自由販売になる
1861年	ニシン漁に建網を使用
1863年	春:ニシン、ホッケ 夏:アワビ、ナマコ、ホソメコンブ 秋:スルメ 冬:タラ
見込	
1864年	島の流罪人に漁業を担わせる
1869年	場所請負制度廃止。福岡藩統治開始
1870-72年	ニシン、アワビ、ナマコ、ホッケ、ホタテ
1880-83年	胴鯨、身欠、ナマコ、アワビなど
1882年	ニシン不漁(走りやや獲れる)
1883年	ニシン不漁
1884年	ニシン豊漁
1885-93年	ニシン漁最盛期(島内での)
1885年	漁業採藻資金貸付金を貸与。海藻採取
同	禁酒令を全島に適用
1887年	奥尻水産物営業組合結成、翌年設立
1888年	奥尻郡漁業貯金と預金を始める
1891-92年	フカ漁を始める。96年以降減る
1893年	ニシン不漁
1894年	ニシン不漁
同	コウナゴ漁を始める。96年より本格化
1895年	宇宙長造がホタテの養殖成功
1897年	ニシン漁の好漁の最後(島内での)
同	福井県の入業者がイカで高利益
同	ホソメコンブを採り始める
1899年	カレイ漁を始める
1901年	宮津沖にタラの生息場所を発見
同	ホッケ漁に捲網を使用開始
1901-02年	岩内方面からイカ漁の入業者で本格化
1902-03年	ニシン数十匹見た後、皆無になる
1902年頃	ワカメ採取に力を入れる
1904-07年	タコを出荷し始める
1907年	ホソメコンブ製造高3,200貫
1910年	奥尻漁業組合設立認可
同	水野辰太郎がホッケの漕曳網で表彰
1911-12年	ノリの収穫量1日石油缶1個ほど

当時の漁船のいろいろ

川崎船	北陸起源。帆走可能。沖用
保津船	和船。三半船よりも小型。後に大型化
三半船	梁7~10尺、
磯船	梁2.7~3.5尺、長さ1丈8尺



「奥尻島茶津弁天島」と題された明治末～大正初期の絵葉書です。左手の瓦屋根の建物は、石川商店の旧店舗で、昭和60年代まで使用されてきました。弁天島(岬)の周囲は手つかずのまま、岸壁も斜路もありません。天然の船入澗になっていて、北前船を2隻ほど係留できると、江戸時代末期の絵図に描かれています。岩山の参道には神社の鳥居が2基見えますが、社自体は小型のために見えていません。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

世界遺産とは何か?
北海学園大学人文学部世界遺産研究班

日本国内で「世界遺産」が有名になったのはここ25年ほどのことでしょう。年々登録物件は増えているものの、登録されて、悲願達成バンザイ!と言いたいところですが、登録に至るまでの道のりには国々の思惑や利害関係が隠れていたりもします。登録遺産の陰に追いやられてしまった陽の目を見ない文化財にも目を向ける余裕を持ちたいものです。



奥尻のつり 秋号



9月上旬より10月中旬頃にかけて、奥尻港や宮津港内でアオリイカの回遊が見られました。このイカはもともと南の方の水温の高い海域で生息する種類のため、海水温の高い時期には奥尻近海に居ますが、水温が下がるとともに見えなくなっていく。10月上旬には1キロを超えるような超大物のアオリイカが2匹も釣れたという話が聞こえてきました。釣った人は相当喜んでいましたが、こんな大物釣りが出るのも、離島奥尻の魅力ですね。11月に入ると、いよいよ磯釣りシーズン後半戦が開幕、この時期の北西風に負けじと、島のベテラン勢も気合を入れておりました。東海岸の崖の岬(ガンケ)では、50cmにせまるクロゾイも釣れたとか。12月中旬まで熱戦は続きそうです。皆さん安全第一でお願いします!

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第40回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

しでよくだかみ の津てれ釣を
 ま来りにのったラ所の二なっ流此
 った釣来かたらッに祭三いたしの
 たのれても。たビヒり艘。がて間
 。でな、知魚っ岩ラと舟俺、釣も
 、い下れはたま、言が磯今っ釣
 延。しな陸五で見う見舟日たり
 縄朝てい口尾来えのえかはらに
 揚飯み、近よるでるらま五た
 げもたとくり、。橋。ずだ六た
 て食ら思まも魚 の明っ一十時
 づ 歸べ、っで釣数 所日と匹尾、
 く っな二て行らえ やは離もも目
 てい尾近っなて 宮茶れ釣 所

ういた長繁てガマリ者部究
 で島めサ茂いゴコま、安会十一
 すの、イすまメンし地井が一
 。健利くるすコブた元肇開一
 康用ルホガン、。漁教か中
 食方がソ、ブリ北師授れ、海
 素法一メ日なシ海さほ、海
 材次年コ本どり道んか北藻利
 に第でン海がコのら漁大利用
 なで終ブ沿知ン昆が港水用
 はわは岸らブ布集関産学
 そ良る成にれ、はま

ホソメコンツの話



右がエゾアワビ、左がマダカアワビ

みで尻すいよ部さ早州でワがへ
 がすで。うくのれくのしビ主ア北
 あ。も数種採ごて大温ての流ワ海
 りエたは類れくいき暖、冷でビ道
 まゾま少もる一まくな簡水す一
 すアにな生マ部すな海単域。は
 。ワ見い息ダに。る域ににこ、
 ビつもし力北たで言おれエ採
 よかてア、海めはうけはゾれ
 りのいワ本道、成とるクア
 もよ、まビ州の区長、亜ロワ
 厚う奥とで南別が本種アビ

マダカはまだか?

事つとのすいたよも騒てに
 に希がな。まこり、ぎい本コ
 対望重い今すと一関とた島コ
 処的要対後。は応係な事にナ
 し観で処は感何ののりとも禍の
 て測すを一謝よ終皆まは言び、
 いを。続人申し息様し言え、
 く排こけ一しのがのた。想り
 の除こて人上光見ご。そ大定
 がしは行がげ明え尽そ力れき
 吉てひく油まとて思きにでな
 物とこ断

新衣之記録 (編集後記)

活がナともり策りは津期ン波
 躍、時なあ、でま二波の夕館十
 さ展代りつフ六し八館開一と月
 せ示のまたエ月た六は館内稲三
 て施先しこりか。人一がの穂十
 い設はた。ら今と七終資ふ一
 きと見。でダの期い一了料れ日
 たし通ウ厳イ開はう一し展あ
 いてせイシヤ館コ実人、ま示い
 で今まズいのと口績、し室研
 す。後せコ数変なナと稲たの修
 もん口字更 対な穂 今津

津波館・稲穂資料館終了



エア北海道 (ADK) 最終便のカバー